



第4回 日本神経化学会 若手KYOUEN

日時 2025年 2月15日（土）12:00～（11:30～受付）

場所 大阪大学吹田キャンパス 最先端医療イノベーションセンター（CoMIT）
1F マルチメディアホール、ラウンジ・ホワイエ

締切2月2日（日）

※聴講のみの場合は当日参加も可

本会は独立を目指す世代の活躍支援を主旨とし、日本神経化学会、将来計画委員会によって企画・運営されています。
若手の相互啓発・交流の場となり、地域コミュニティの形成を促進し、研究領域のさらなる発展につなげます。皆様奮ってご参加ください。

Session 1 12:05-13:20

藤原 悠紀 先生（大阪大学 大学院 連合小児発達学研究科 分子生物遺伝学研究領域）
リソソームによる新たな分解系とその病態生理的意義の研究
上村 紀仁 先生（大阪公立大学、京都大学）
マウスにおけるレビー小体アルファシヌクレイン種の特異な生物学的活性
三宅 崇仁 先生（京都大学大学院薬学研究科）
ポスト転写制御がもたらす生命機能の解明に向けて
宝田 美佳 先生（金沢大学 医薬保健研究域医学系 神経解剖学）
虚血脳の組織リモデリング機構
近藤 誠 先生（大阪公立大学大学院医学研究科 脳神経機能形態学）
運動が情動に与える効果の神経メカニズム

Session 2 13:30-14:30

中川 直樹 先生（京都大学大学院医学研究科）
神経回路再編成を駆動する生後発達期神経細胞のゴルジ体極性シフト
竹村 晶子 先生（藤田医科大学 医学部 発生学講座 精神・神経病態解明センター 神経発生学部門）
**連続ブロック表面走査型電子顕微鏡による正期産および早産マウス脳室下帯の
3次元微細形態学的解析**
國井 政孝 先生（大阪大学医学系研究科細胞生物学）
神経細胞の極性形成における細胞内輸送制御分子Rab6の機能の解明
林（高木）朗子 先生（理化学研究所・脳神経科学研究センター・多階層精神疾患研究チーム）
比較シナプス学：あらためて考えるシナプスと神経発火、そして行動との関係

Session 3 14:50-15:50

中村 雪子 先生（大阪精神医療センター・こころの科学リサーチセンター）
不快情動に係わる脳領域が関与する疼痛と運動や経験が脳に与える影響
大槻 元 先生（京都大学大学院医学研究科創薬医学講座）
Maternal immune activation followed by peripubertal stress combinedly produce reactive microglia and confine cerebellar cognition.
澤田 雅人 先生（名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経科学研究所 神経発達・再生医学分野）
生後に生まれるニューロンのドメイン特異的な樹状突起形成制御
白鳥 美穂 先生（順天堂大学薬学部薬理学分野／
同大学大学院医学研究科環境医学研究所 順天堂かゆみ研究センター（JIRC））
痒み情報伝達を担う脊髄後角神経サブセット

Session 4 16:00-17:00

七田 崇 先生（東京科学大学 難治疾患研究所 神経炎症修復学分野）
ミクログリアと神経修復
實木 亨 先生（三重大学大学院医学系研究科生化学）
AMPA 受容体のサブユニット特異的な光操作
増田 隆博 先生（九州大学 生体防御医学研究所 分子神経免疫学分野）
脳境界から脳の発生と疾患を観直す
田中 謙二 先生（慶應義塾大学医学部先端研）
神経化学的に脳体積変化を深掘りする

Poster session 場所：CoMIT 1F ラウンジ・ホワイエ（マルチメディアホール前）
17:00-17:30

特別講演 17:30-18:20

高橋 良輔 先生（京都大学総合研究推進本部、特定教授・参与）
パーキンソン病の分子病態- α シヌクレイン伝播仮説を中心に-

情報交換会 18:30-

費用：5000円 場所：銀杏会館 2F 銀杏クラブ
※事前登録が必要